



学校便り「尚徳」 5月号

第467号

鳥取大学附属小学校

平成23年5月13日

<http://www.fuzoku.tottori-u.ac.jp/~fusho/>

題字「尚徳」は、住川英明教授（地域学部）



こころ、新たに

校長 小枝 達也

平成23年度が始まりました。78名の新しい1年生を迎えてのスタートです。東日本大震災で入学式を挙げるのもままならぬ学校もあったと聞いています。そんな中で、本校において晴れやかな気持ちで新年度を迎えることができたことに感謝したいと思います。

始業式では子どもたちに、日々の授業を大切にしたいということ、制服を着ている間は学校にいるのと同じという話をしました。学習の基本は日々の授業に一生懸命に参加することです。先生の言葉に耳を傾け、自分から興味をもって学ぶことが最もよい学習です。学校で友達と切磋琢磨することで、子どもは学力も人格も育ちます。大いに負けん気を発揮してほしいですし、一方では相手の優れているところは大いに認めるという態度も身につけてほしいと思います。切磋琢磨し合っている仲間だからこそ、認め合えるのです。

学習の定着を担保するのは、集中力だと思っています。集中力は筋力と同じようなところがあって、鍛えればしっかりとした力が身につきますが、怠けているととことん駄目になってしまいます。「集中力×時間＝学習の定着量」という式を念頭に、日々の授業へ気持ちを入れ込んでほしいと思っています。

制服は附属小学校の子どもでもあるという証です。朝、校門をくぐる前であっても、午後、校門を出た後でも、制服を着ている間は附属小学校の子どもでもあるという証とともに存在しています。一人一人が緊張感をもって行動してほしいと思います。それが、学校への行き帰りの安全につながるからです。いろいろな災害や事件が起きるたびに、子どもたちの安全を願わずにはいられません。いざというときへの備えができていないこと。これも豊かさの象徴の一つになるのではないのでしょうか。以上の2点について、ご家庭でも話をしてくださるようお願いいたします。

【入学おめでとう】

4月7日、78名の1年生がどきどきわくわくしながら入学式を迎えました。制服姿が初々しい1年生は、上級生のお兄さんお姉さんの歓迎の言葉や歌を緊張しながらもしっかり聞いていました。式後、担任が一人ずつ名前を読み上げた際も、「はい。」と全員元気のよい返事が返ってきました。子どもたちの真っ直ぐな瞳がさらに輝き、笑顔いっぱいの学校生活となるよう全職員でサポートしていきます。



【旅の学校～6年生】



4月20日からの3日間、「旅の学校」を行いました。出発してまもなく、他の列車に不具合があり、その影響で2時間遅れで岡山駅に到着というアクシデントでのスタートになりました。

初日は、活動時間を短縮しながらの強行日程になりましたが、秋芳洞めぐり、萩焼の手びねり体験など、それぞれの場所で充実した活動ができました。

広島での平和学習は、講談を

聞いた後、平和公園や資料館の見学を行い、ピースボランティアの方からしっかりと当時についてのお話や思いを聞くことができました。その日の夜、学んだことや思ったこと、考えたことなどを発表し合いました。直接見たり聞いたりすることで、より平和に対する思いも深まったようです。今後は、この体験を生かしながら、平和について深く学んでいきたいと思っています。

最終日は、世界遺産でもある宮島・厳島神社に参拝し、日本の伝統文化の一端にふれることができました。

マナーを守って、きまりよく行動することができ、友達との絆もさらに深めることのできた有意義な旅でした。



